

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	磯部 錦司
2. 審査委員	主査：(上越教育大学教授) 松本 健義 副主査：(兵庫教育大学教授) 初田 隆 委員：(上越教育大学教授) 梅野 正信 委員：(上越教育大学准教授) 松尾 大介 委員：(上越教育大学准教授) 伊藤 将和
3. 論文題目	生命主義的自然観を基軸とした芸術による教育
4. 審査結果の要旨	<p>論文提出による学位申請者 磯部 錦司 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>日時：平成30年2月17日（土）14時00分～14時30分</p> <p>場所：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス 講義室1</p> <p>1) 学位論文の構成と概要</p> <p>本論文は、序及び結と全3部15章により、以下のとおり構成している。</p> <p>(1)論文の構成</p> <p>序</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の目的と視点 2. 本研究に通底する理論的背景 3. 先行研究の概観 4. 基本的な語彙の説明及び定義 5. 研究の構成と方法及び手順 <p>第I部 生命主義的自然観を基軸とした芸術</p> <p>第1章 現代日本の生命論と芸術にみるコアとしての「生命」</p> <p>第2章 <自然/生命>との関係における芸術の役割</p> <p>第3章 <自然/生命>との関係における「芸術の6層」</p> <p>第II部 「芸術の6層」の実相と構造</p> <p>第1章 A層「環境との一体化」</p>

第2章 B層「個の想像的世界の形象化」

第3章 C層「環境の芸術化」

第4章 D層「生活の芸術化」

第5章 E層「社会的イメージの形象化」

第6章 F層「社会的創造活動の芸術化」

第7章 <自然/生命>と関わる「芸術の6層」の構造

第Ⅲ部 生命をコアとした「芸術の6層」による総合教育

第1章 「芸術という総合」の教育

第2章 「空間的／関係的」地域の役割と方向性

第3章 「芸術の共同体」の生成過程と展開

第4章 生活を基盤とした「芸術の共同体」によるプロジェクト・アプローチの展開と要件

第5章 生命をコアとした「芸術の6層」によるクロスカリキュラムの展開と構造

結 総括的考察と今後の課題

(2) 論文の概要

本論文は、序および結と第Ⅰ部、第Ⅱ部、第Ⅲ部の全三部全15章より構成している。

自然と人間の関わりをどう捉え、子どもたちと環境との関係をどう構築していくのか、これは個の知に関わる課題であると同時に、現代社会の諸問題に通底する課題でもある。自然や生命への眼差しは環境問題だけでなく、「外界をどう感じるか」という全ての感じ方や見方に通底する。それらは現代社会の平和や人権等の諸問題、さらには人間の「生」やアイデンティティ、個人の生き方につながる共通の視点をもつものである。

本論文における「芸術」とは、外界との相互作用を通して意味を形成する経験であり、主に造形芸術を対象としている。また、本論文の基本概念である「生命主義的自然観」とは、現代生命哲学の生命主義、芸術文化に見られるエコロジー思想、デューイの経験主義的自然観を根拠として本論文で設定した用語である。人間と全生命体とのつながりの中で生まれる包括的で統合的な質と、その質が生み出された相互的、連続的、状況的な関係とが融合されることで形成される自然に対する知、すなわち、見方、感じ方、考え方である。本論文は、生命主義的自然観を軸にした総合教育のあり方を芸術活動から検討し、その教育における芸術の役割と作用を明らかにする。これにより、外界と人間の関係性を知として構築していく教育実践の構造と内容、実践の在り方を示すことを目的としている。以上を通して、現代の社会背景が要請する生命論と、そこに展開する芸術文化、及びその知を具体化していく教育とを、実践学においてつなげ構造化することを目的としている。

第Ⅰ部生命主義的自然観を基軸とした芸術における<自然/生命>では、芸術のコアとしての「生命」について、自然との関係における芸術の役割を、現代日本の生命論の視座から考察し、A層：環境との一体化、B層：個の想像的世界の形象化、C層：環境の芸術化、D層：生活の芸術

化, E層: 社会的イメージの形象化, F層: 社会的創造活動の芸術化の「芸術の6層」を導きだしている。

第Ⅱ部では, 自然と関わる「芸術の6層」の各層における子どもと事物との相互作用のプロセスと表現内容を, 「複線経路・等至性モデル」(Trajectory Equifinality Model:TEM)を用いて質的に検証し, 生命主義的自然観を構築していく6層の経験の状況と構造を提示して, 各層の役割と内容を明らかにしている。第7章では, 6層の表現内容とプロセス分析を照合し, 文化的な記号を取り入れて変容するシステムとしての人間の動的なメカニズムを捉えるため「発生の三層モデル」(Three Layers Model of Genesis:TLMG)の理論的枠組みを援用し, 「芸術という総合」が発生する3層を「個の行為」, 「形象化」, 「意味の形成」と捉え, 〈自然/生命〉と身体的行為による一体化と形象化による多元的で社会的な意味の形成の全体構造を6層それぞれについて重層的に示した。

第Ⅲ部では, 磯部錦司氏が1997年～2016年において実践し収集した事例から,

生命をコアとした「芸術の6層」による総合教育では, J. デューイの経験主義とH. リードの芸術を教育の基礎とする教育観より芸術活動を位置づけ, 生命主義的自然観を基軸とした芸術による総合教育の実践の要件と方向性を明らかにし, 展開の構造を示している。特に, 地域での直接的な行為による〈自然/生命〉との一体化を基盤とした形象化と意味の形成により, 芸術により生起する共同体と共同体によって創造される芸術の事例分析を通して「芸術の共同体」の概念を新たに提示し, 園および小中学校での展開と役割をプロジェクト・アプローチとクロスカリキュラムの実践事例の質的分析により示している。〈自然/生命〉を縦軸とする「芸術という総合」の教育実践で構築される「包括的, 円環的, 状況的, 関係的な自然観」, 「知の立体的ネットワーク」, 「芸術の共同体」の3点を, 教育実践の方向性として提示している。

結においては, 生命主義的自然観を基軸とした芸術と, 芸術の6層が果たす役割を整理し, 生命主義的自然観を基軸とした芸術による教育の全体構造を示した。

今後の課題として, 本論文では6層において表される表現内容とプロセスを質的手法により分析したが, それらの手法と併せて物理的測度と心理的測度, 質的・量的な相互分析から検証し, 実践を通じた自然観の深化と教育効果を示すこと。展開についての実践研究では, 実践の体系と経験の質についての実践研究のさらなる構築と検証の必要性があることを示した。

2) 審査経過

本研究の審査は, 次の観点について行った。

(1) 研究目的の妥当性と論文構成の整合性について

「生命主義的自然観」の視点の設定により, J. デューイやH. リード, 近代主義以降の日本の生命主義的自然観等を理論的背景として問題の所在を位置付け, その観点に基づき「芸術の6層」を析出している。析出された6層の芸術表現実践の過程と関係を, 実践フィールドの特性に基づき臨床的に検証する方法を論理的に構成して分析し, 各層の質と構造を明らかにしている。こうして明らかにした各層の構造に基づき, プロジェクト・アプローチとクロスカリキュラムによる実践展開の方向性と在り方を提案し, その成果を分析して総合考察することで論文

全体の結論と課題を導き出しており、研究目的の妥当性と論文構成の整合性を確認できる。

(2) 研究の独創性と発展性について

社会の流動化と持続可能性に対して、教育において自然と人間の関わりをどう捉え、学校教育を通して子どもたちと環境との関係をどう構築していくのかが、個の知に関わる課題であり、現代社会の諸問題に通底する課題である。本論文は「生命」をコアとした芸術による総合の教育実践の根拠とそのあり方に関して、以下の点について提示したことに独創性がある。

- ① 芸術による教育を、子どもの生活の立脚点である地域との行為的関与とその経験を基盤とした「芸術の6層」による形象化を通じた多元的で社会的で文化的な意味の形成過程として理論的に位置付けた点。
- ② その各層における幼児と児童の表現の過程と内容に関する事例の質的分析により、子どもたちが〈自然/生命〉に対する意味を内在化させ、生活において外在化し、内在化と外在化を繰り返す過程が、文化的記号を取り入れて「個の行為→形象化→意味の形成」へと変容する「〈知〉の動的システム（発生の三層モデル）」を示した点。
- ③ 「人間と自然の共同体」を、経験、想像力、意味生成を通して、芸術において結果として生成される共同体と、芸術を方法として生起する共同体とを、「芸術の共同体」として位置付け、それが「共存性、居場所、感覚の共有、イメージの共有」の要素において「創造の共同体」として形成され、協同・協働において原初的な社会的創造活動とアイデンティティの形成へと展開することをプロセスから検証した点。
- ④ 近代主義以降の学校教育の教育実践の方向性として、プロジェクト・アプローチやクロスカリキュラムの実践展開とその事例の質的分析を通して提示した点。

(3) 教育実践への貢献について

ポストモダン以降の教育のあり方を、〈自然/生命〉と関わる「芸術の6層」の導き出しと、それに基づく「個の行為」、「形象化」、「意味の形成」の、発生の3層より造形活動の事例分析により、生命主義的自然観を基軸とした「芸術という総合」の教育の構造を明らかにし、今日の学校教育における教育実践の方向性を、「芸術という総合」の視座から地域での直接経験に基づくプロジェクト・アプローチや、クロスカリキュラムによる芸術活動の構想実践と事例分析により明らかにしたことは、「芸術による総合」をコアとした環境、文化、社会との主体的で相互作用的な人間形成の過程とその可能性を、学校教育における近代主義以降の教育実践研究の方向性と在り方の一つとして提示したといえる。

3) 審査結果

以上により本審査委員会は、磯部 錦司 の提出した学位論文が、博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。